

平成28年度 貨物自動車運送事業における
中継輸送実証実験モデル事業 有識者検討会
第4回 議事概要

1. 日 時

平成29年3月3日（金）10:00～12:00

2. 場 所

中央合同庁舎2号館低層棟1階 国土交通省共用会議室

3. 議事概要

○実証実験を通じて見えた課題について（インタビュー結果より）

(1) 中継場所について

（森田委員）

トラックステーションが有する入浴や休憩・宿泊できる設備はドライバーの労働環境改善にも寄与すると思う。女性ドライバーは、女性が使いやすいシャワーのあるSAで休憩が取れるよう運行調整していると聞いている。

（松崎委員）

道の駅の駐車場や協同組合のスペースなども利用可能ではないか。
日貨協連が事業として中継場所を提供するという考え方もある。

(2) 中継輸送への取組み方について

（齊藤委員）

実証実験に参加いただいた物流事業者の経営者の方が、先を見据えた自社の経営戦略と結び付けて中継輸送への取組み方を考えていることが読み取れて非常に有意義なインタビューであったと思う。

貨物積替え方式は、前回の検討会でも難しいのではないかと意見が出ていたが、取組の容易性を踏まえ、やりたいという意見があることが分かった。

(3) 中継輸送におけるコスト抑制に向けた取り組みについて

(齊藤委員)

具体的な中継輸送の評価だけでなく、稼働率向上によるコスト吸収を考えているということは重要な報告である。

(森田委員)

中継輸送には重要な3つの項目がある。

- ① 中継場所のインフラ整備
- ② 車両の稼働率向上：自社努力
- ③ 荷主とコスト負担を分担：両社で話し合い

(松崎委員)

共同配送をしていないところが一足飛びに中継輸送に取り組むことは考えづらい。『社内での中継輸送』→『同一荷主の貨物での他社との中継輸送』→『複数荷主の貨物での他社との中継輸送』というように、中継輸送の取組みステップがある。

以 上